

# 米大統領選

## 前回と同じ顔ぶれの一騎打ちに

ジャーナリスト

泉 洋海

11月に行われる米大統領選の候補指名争いの予備選は、3月に行われたスーパーチューズデーで、共和党はトランプ前大統領が圧勝して指名を確実にし、民主党のバイデン大統領

領との一騎打ちが確実となった。2人は今夏開かれる民主、共和の党大会でそれぞれ指名される予定。バイデン氏は自らの年齢や長引くインフレへの対応、トランプ氏は数々の訴訟や選挙資金不足と

ニアなど14州を制し、圧倒的な強さを見せつけた。ヘイリー元国連大使は、バーモント州で辛勝したが、対トランプ氏で通算2勝2敗となり、選挙戦からの撤退を表明した。ヘイリー氏はトランプ氏を支持するかどうかの明言は避け、「候補ではなく

2州を奪ったことは、次回大統領選に望みをつなぐことになるだろう。トランプ氏の圧勝とはいえ、1年前は数パーセントしか支持がなかったヘイリー氏は急速に伸ばし、最近では30〜40%の支持を得ることもあった。これは一定程度、トランプ氏の批判票を取り込んでいることを意味



素晴らしい夜だ

「素晴らしい夜だ」。トランプ前大統領は3月5日、15州の共和党予備選などが集めたスーパーチューズデーで、大票田であるテキサス、カリフォル

### 圧勝

といった弱点を抱える。第3の候補として弁護士のリバー・ケネディ・ジュニア氏も立候補を予定している。

トランプ氏は議会襲撃事件などで起訴されており、選挙に立候補する資格がない、とコロラド州などが訴訟を起こしていた。ヘイリー氏は、トランプ氏が本選に出られない場合、取って代わる可能性をうかがっていた。しかし、予備選のヤマ場となるスーパーチューズデー前日に、米連邦最高裁がトランプ氏の大統領選出馬資格を認める判決を出し、ヘイリー氏のかすかな望みはついた。

だが、同氏がトランプ氏を相手に



候補ではなくなるが、声を上げるのはやめない

する。ヘイリー支持者が本選でトランプ氏に投票するかは分からず、本選の不安要因になりそうだ。

### 対決姿勢あらわ

現職のバイデン大統領は3度目の一般教書演説に臨んだ。大統領が国の現状や今後1年の施政方針を議会に説明する一大イベントだ。

その演説でバイデン氏は、大統領選本選での対決が確実視されるトランプ氏を念頭に「議会占拠事件と2020年大統領選挙に関するうそ、そして選挙を盗もうとする企ては、米国の民主主義に最も深刻な脅威をもたらした」と批判。「民主主義は勝ったが脅威は残っている。党派に関係なく団結し、民主主義を守ろう」と訴えた。

また「自由へのもう1つの攻撃」として、「連邦最高裁が中絶の権利を認めた」ロー対ウェイド判決が覆されたのは前任者が原因だ」と話し、中絶の自由を奪うきっかけをつくったとして前大統領を批判した。

民主党は2022年の中間選挙で、苦戦が伝えられていたが、人工妊娠中絶擁護を訴え善戦した。今回

の選挙戦でも中絶擁護をテーマに追いつく風を期待している節がある。

一方で「3年間で1500万件の雇用を生んだ。失業率は50年ぶりの低さ」と自らの功績を強調。3万人以上ものパレスチナ人が殺害され、批判が高まるガザ情勢については、イスラエルに対して「ガザにいる罪なき市民を守る責任がある」と指摘。米国は人道支援として「食料や衣料品などを運ぶ大型船を受け入れる臨時埠頭をガザに設置する」と表明した。

ロシアの軍事侵攻が続くウクライナについても、「われわれが自衛のために必要な武器を提供すれば、ウクライナはブーチン（大統領）を止めることができる」と説明。超党派でつくった国家安全保障法案を私に送ってほしいと、反対する議会に訴えた。

「私は前任者とは違う」と名前は出さずに、トランプ氏との対決姿勢を明確にした。国際政治の専門家らには、力強い演説で、高齢不安を払拭したと評価する声が多かった。

### 第3の候補

とはいえ、バイデン大統領を取り巻く現状は厳しい。新旧大統領による再対決の構図が固まる中、ケネディ氏が第三の候補として無所属での選挙活動を本格化させている。ケネディ氏は暗殺された故ケネディ大統領のおい。環境問題に詳しい弁護士で、反ワクチン活動家でもある。3月下旬には、副大統領候補に弁護士ニコル・シヤナハン氏を指名した。同氏はグーグルの共同創業者であるセルゲイ・ブリン氏の元妻だ。第三の候補といっても、米国ではブランドのケネディ家。立候補すれば、バイデン、トランプの両氏から相当の票を奪い、選挙戦の行方を左右する恐れがある。

それによるとベンシルベニア、ミシガン、アリゾナ、ジョージア、ネバダ、ノースカロライナの6州では、両氏の直接対決でも無所属候補を含む投票でも、トランプ氏が2〜8ポイントリードした。ウイスconsin州は複数候補との投票ではバイデン氏が3ポイントリードし、トランプ氏との直接対決の場合では競つていくという。経済や国境警備対策などバイデン氏の政権運営への不満が表出しているとみられる。

ただ、米先端政策研究所のグレン・フクシマ上席研究員は、議会襲撃事件などトランプ氏による4つの起訴を不安要素とみる。民主、共和どちらの候補も不人気で閉塞感があるとしながら、「起訴でいつどうい結果が出るかも重要。トランプ氏に有罪判決が出た場合、かなり支持は下がる」とする。

トランプ氏は4つの刑事事件で、起訴を「選挙妨害」と批判し、判決言い渡しを選挙後に延ばし、大統領当選後に司法省に取り下げさせる思惑を抱く。他方、民事訴訟では、多額の支払いを命じられており、選挙資金集めにも打撃となっている。